



# 子どもの体験を支える ネットワーク円卓会議

みんなの配信と交流プラットフォーム事業の成果を振り返り、  
子どもの体験保障に必要な資源を再確認する

## 実施報告書

日 時： 2024年1月31日（水）18:00-21:00（受付開始 17:30-）  
場 所： 沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）美術館 講座室+zoom 配信  
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄  
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

## 【報告】子どもの体験を支えるネットワーク円卓会議



- 日時：2024年1月31日（水）18:00-21:00
- 場所：沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）  
美術館 講座室+zoom 配信
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：6名（事業実行団体、NPO・市民団体等）
- 主催：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供

**落合 千華 氏**（公益財団法人みらいファンド沖縄プログラムディレクター）  
**石原 輝 氏**（公益財団法人みらいファンド沖縄プログラムオフィサー）

みんなの配信と交流プラットフォーム事業の成果を振り返り、子どもの体験保障に必要な資源を再確認する

公益財団法人みらいファンド沖縄が休眠預金活用事業で行ってきた「みんなの配信と交流プラットフォーム事業」が2月で終了します。この事業は、コロナ禍およびその後における子どもの体験の状況の調査、それを補うコンテンツの開発（主に配信技術を活用したもの）を目論み企画されました。今回の円卓会議では、この事業成果を振り返り、事業を通してわかったことを確認しながら、子どもの体験保障を官民で支えるための資源や体制のあり方を議論します。

### センターメンバー



落合 千華  
公益財団法人  
みらいファンド  
沖縄プログラム  
ディレクター



石原 輝  
公益財団法人  
みらいファンド  
沖縄プログラム  
オフィサー



仲本 大樹  
Kailua Hula  
Studio  
代表



奥間 あかり  
沖縄県立首里  
高等学校  
軽音楽部2年



高江洲 奈  
沖縄県立総合教  
育センター  
教科研修班  
研究主事



幸地 正樹  
ケイスリー  
株式会社  
代表取締役社長



山崎 新  
一般社団法人沖  
縄じんぶん考房  
代表理事

# 子どもの体験を支える ネットワーク 円卓会議

2024年1月31日(水)  
18:00~21:00

①  
沖縄県立博物館・  
美術館(おきみかー)  
美術館講座室+Zoom

138回目

みんなの配信と交流プラットフォーム  
事業の成果を振り返り、  
子どもの体験保障に必要な資源を  
再確認する

テーマ

主催: 公益財団法人みらいファンド沖縄  
協カ: NPO法人 まちなか研究所わくわく

地域の困りごとを  
社会課題として共有・共感  
する場(イシューメイキング)

## 論点提供

公益財団法人  
みらいファンド沖縄

落合さん (プログラムディレクター)  
石原さん (プログラムオプサー)

子どもがかかわるのが  
楽しい  
↓  
学びの機会  
音楽の機会

どんなことをしたか?  
<調査部門>  
3 孫球新報  
4 回 体 スタジオレゾナンス  
・沖縄県立情報ネットワ  
・7イスイー株式会社

映像と  
音楽の背景  
を学ぶ  
音楽

作曲者の方  
子どもたち

②  
スポーツ  
八重山子ども応援  
スポーツ文化発信事業  
木下 講習  
音楽とまちづくり  
配信技術  
→ 配信技術も  
高技術に  
高島の子供たちに  
本島の講師が指導

どうしてこの事業?

2014年「子どもの貧困」  
2019年 体験資金  
三浦  
「部活動等を通じて  
体験の促進」  
体験の保障  
↓  
新たな体験活動  
仁万整備

西の信を通じ  
様々なバリエーション  
で届ける

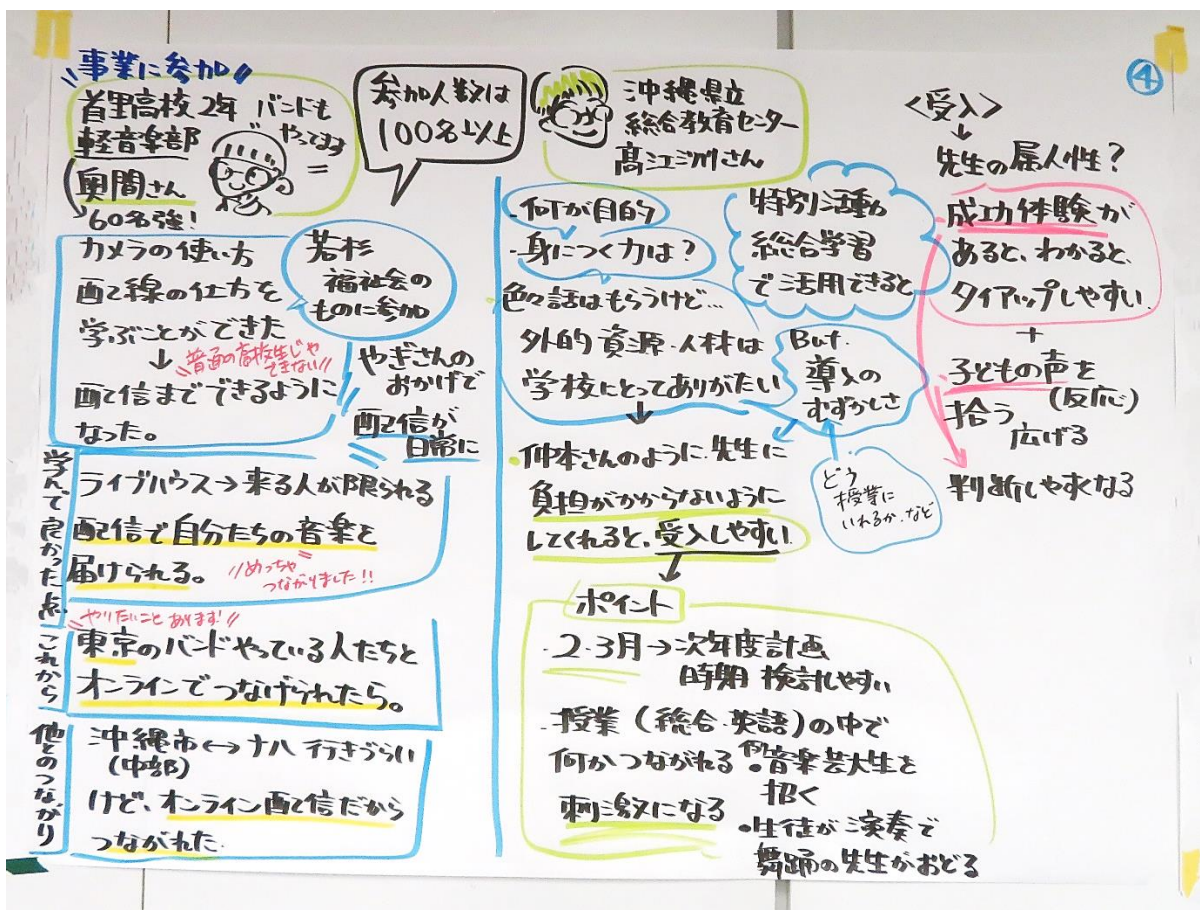
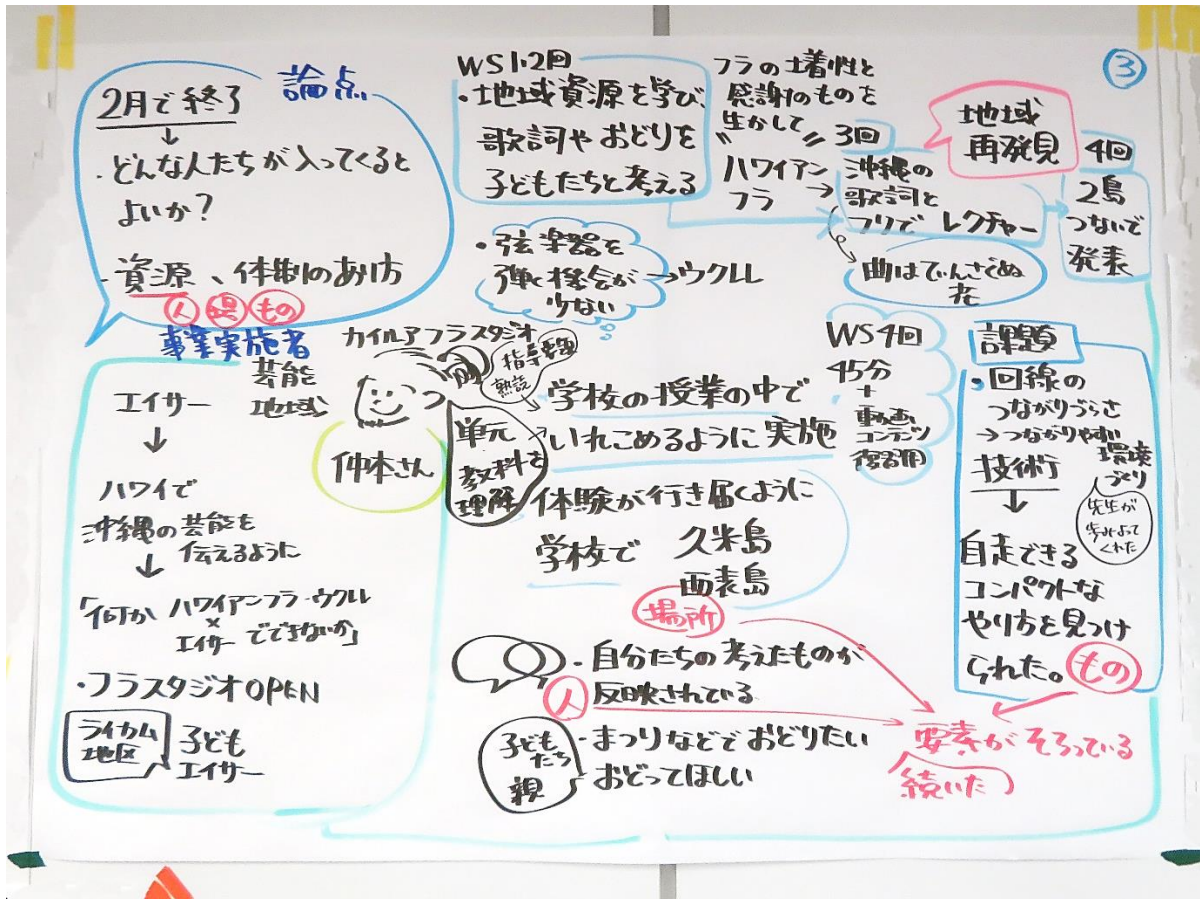
① コンテンツ開発  
② 調査  
→ どのネットワ  
が必要?  
どう届ける? ニーズは?

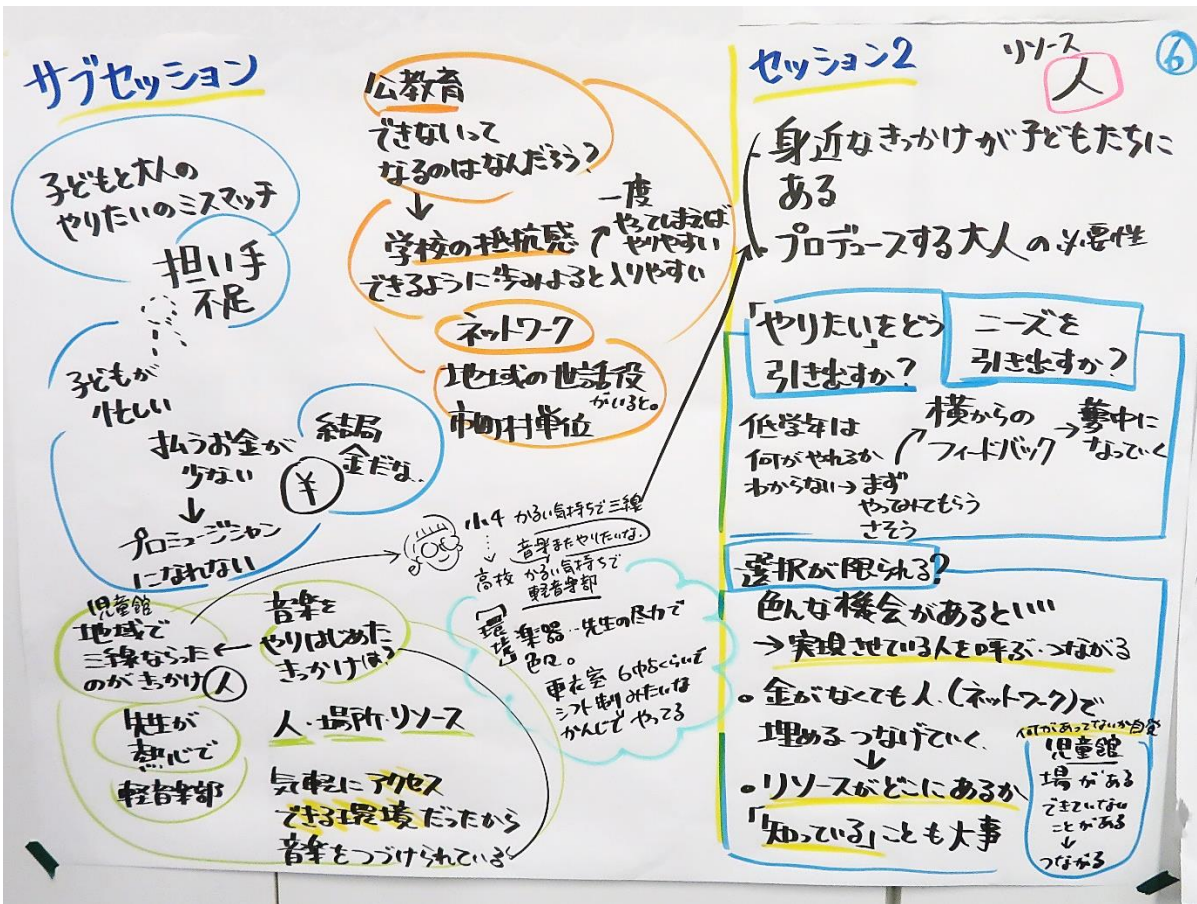
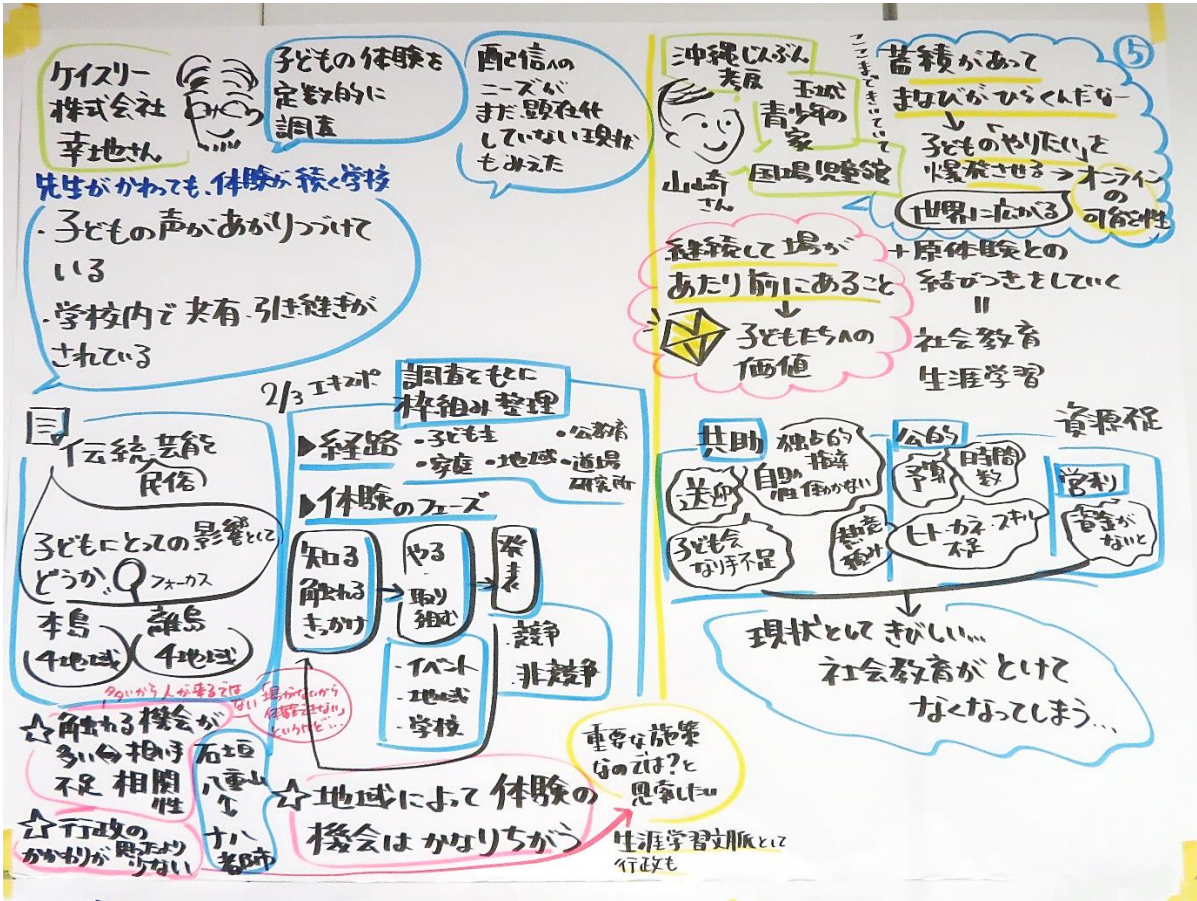
キャリア教育  
アクティブラーニング  
色んなところから  
色んな子どもたちが  
職場見学

文化体験  
フラダンスを  
一緒に

インフラの  
発信受信の  
体験不足?

アプロが法  
本誌  
本誌-Equity? 本誌  
本誌





セッション2

リソース

モノ 場所

- ・学校のもの場)流動性が  
公的のもの) 出るように  
仲介方 手続きの問題
- ・地域に眠っているものを保管  
シェアする方法としてある

学校は、場モノはある。

人がない。

↓ 学校

地域のリソースとして

学校側が OPENになる必要性

必要な資源が  
検査できるとつながりやすい

仲介

地域コネクターが  
いろいろ人それぞれ。

仲介 手続があるから

工場見学  
とか?  
知育

企業×学校を  
するポイントは何?

何が目的か?

子どもにとって  
メリット

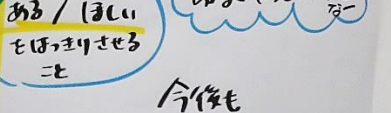
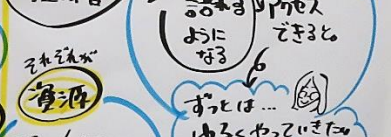
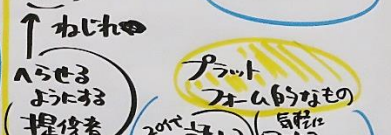
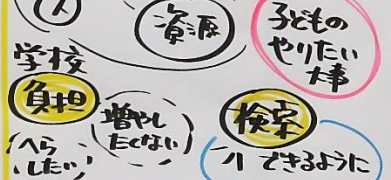
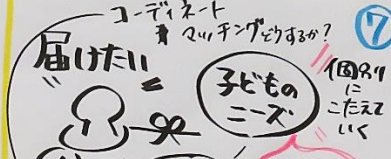
子どもの声を聴か  
行かう

成長段階に  
合わせた体験活動が  
おかし → 目的の 転  
もつて 成る

地域を知る  
自分を知る

ニーズが  
子どもは  
ある。

多角的に  
有様に  
やり込  
てきと  
い



今後も  
1/3 工場  
2/3 合同コネクター  
事業関係  
あつた  
おんり

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 子どもの個別のニーズに応じていくためには多くのステークホルダー（地域住民、学校教育、社会教育、企業、プログラムのコーディネーター、演者等）の連携が必要。そして、それぞれが持つ資源をどう共有していくかという議論をすべき
- 子どもの成長段階に合わせた体験活動や、潜在的なニーズを引き出すために、ハード・ソフト含めた場を社会が準備すべき。また、各ステークホルダーの負担軽減も意識し、ICT 技術も活用した資源とニーズのマッチングを実現しよう

## ■参加者によるサブセッション

### みんなの配信と交流プラットフォーム事業の成果を振り返り、 子どもの体験保障に必要な資源を再確認する

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

#### ①

- ・ 子どもにどういう権利が与えられるか、そこからの変容、そこにカリキュラムが重なれば(公教育)
- ・ やっていること自体の中身がどういうものかが重要、文脈を解釈して(県芸・三線)
- ・ 学校との関係構築に3カ月、最終的に地域の部活に?
- ・ 体験を選択する権利の話し
- ・ なるべく学校の負担にならないように(でも1回やったら次はスムーズに)
- ・ 環境を整えると、別の機会にも使える(企業もそこに参画?)
- ・ 学校の先生も、外との接続したい時にそのネットワークを使えると良い→市町村単位くらい?(地域の世話役?)→学校が主体的にはなかなか難しい…
- ・ 学校側が受け入れ難い、とい状況の課題はどこ?→不安を取り除く
- ・ (いいものだと知っている) + (子どものニーズ) →これが合わさると、本当はできるはず…。

#### ②

※子どもの体験保障に必要な資源を再確認する

- ・ 担い不足問題
- ・ コロナの影響は大きかった
- ・ 子どもの4年は大きい
- ・ 子どもが忙しい(リ島)

エイサーが行くだけで遊びだった(芸能をやるのではなく)

ある程度の強制力も必要?

「人的資源足りてない」

大人のやる気と子どものやりたいのギャップ

※お金の問題は大きい

ボランティアでは続けられない

※音楽への謝金の額は低い

一流の人が教えることができる場を作る

⇒それで生活できるようにする

ジュニアジャズ8年続いている

県外の資金をいただいている

県内で支えてくれる体制が必要では?

県外はかく差は大きかった

イベントで資金造成する!→親に負担させない

結局、資金!

#### ③

体験に気軽に安心してアクセスできる環境を大人が作る

人 熱意のある先生

場所 親も安心

リソース 自由に使える、楽譜

始めるきっかけ

児童館で三線

身近な場所にきっかけがある

ものずきな大人

---

部活動 先生次第

軽音、芸能→良くないもの 親も先生も

---

子どものやりたい/親がせいげん

---

芸能豊か エイサーやらせればいい

評価しやすいもの

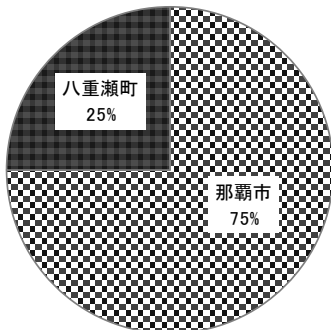


## 子どもの体験を支えるネットワーク円卓会議 参加者アンケート集計

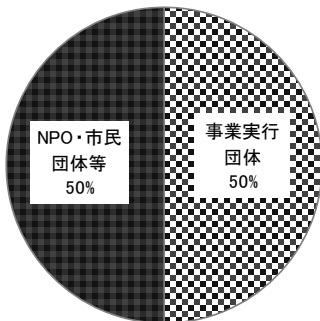
### ◆概要

- ・日時：2024年1月31日（水）18:00-21:00
- ・場所：沖縄県立博物館・美術館（おきみゆー）  
美術館 講座室+zoom 配信
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：6名（事業実行団体、NPO・市民団体等）  
(アンケート回収4名、回収率67%)

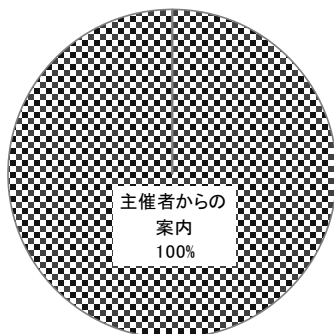
### 1. どちらから？



### 2. 所属



### 3. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.3（5点中）

満足度	5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
人数	2名	1名	1名	0名	0名

### 5. 満足度の理由

#### (5. 満足)

- ・ 子どもの体験については切り口が無数にあるけれど、その真ん中に子どもの思いを置くことを忘れてくれないと気付かせてもらえた。
- ・ 各事業の内容をきけてよかった

#### (4. 概ね満足)

- ・ 自事業の意味の確認ができました。

#### (3. 普通)

- ・ もう少し「子どもの体験保障」についての具体的な方法、方策も議論してほしかった。

### 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 地域と学校をつなぎ、リソースを発掘できるコーディネーターという人の配置と、マッチング機能のあるポータルサイトの設置で、子どもの体験の格差解消は結構進むのではないかと思った。
- ・ 議論の範囲が色々あって面白いなーと思ってました。
- ・ リソースの確認

(写真) 会場の様子



<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにどういった刺激が与えられるか、そこからの発案。そこをカリキュラムに重なる。(公教育)</li> <li>・やっていること自体の中身がどういったものが重要。文脈を解釈して。(果敢と三原)</li> <li>・学校との関係構築に3ヶ月。最終的に、地域の部活に?</li> <li>・体験を選択する権利の話。</li> <li>・なるべく学校の負担にならないように。(秋10ヶ月に1回はスムーズに)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を整えると、別の機会にも使える。(企業とそこを参考?)</li> <li>・学校の先生も、外との連携したい時にそのネットワークを使えるといい。(地域の世話役?) → 学校が主体的にはなかなか難しい... 市町村単位くらい? ↓</li> <li>・学校側が受け入れやすい、という状況の課題はどこ? → 不審を取り除く。</li> </ul>	<p>(いいものだと知っている) 3 + (子どものニーズがある) ↓ これだけ合わせると、本当はできるはず...</p>
---	--	---

<p>子どもへの体験(保障)に必要は資源を再確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足問題</li> <li>・コトの形をいかに活用して子どもがしたい(得意) 大人の子と</li> <li>・工場の行くために必要なスキルを子どもが持っているか? あるいは、ある程度強制的に必要?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金の問題は大きい</li> <li>・ボランティアでは続けられない</li> <li>・多様な謝金の額は近い。</li> <li>・一流の人がやることだと現場で作る。→ それを生活できるといえる</li> <li>・3Dプリンターも必要になる</li> <li>・県外の資金を借りたこと</li> <li>・県内で支えてくれる体制が必要なの?</li> </ul>	<p>県外の子は差が大きいから、代分で資金造成する! → 親に負担させない</p> <p><u>結局、資金!</u></p>
---	---	--

<p>体験に</p> <p>気軽に安心してアゲ入できる環境を大人が作る</p>	<p>熱意のある先生</p> <p>場所 親中心</p> <p>リリース <del>部</del> 自由に使える 楽々</p>	<p>始めるきっかけ 児童館で三線 身近な場所にはきっかけが ものすごく大人</p> <hr/> <p>部活動 先生が... 軽音 → 良かった... 技能 → 親も先生も</p> <hr/> <p>子どものやりた... / 親が... 技能量がエッセンスだから 評価してあげよう...</p>
---	---	---